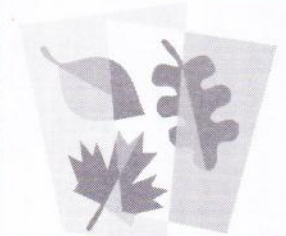


広袴便り

広袴町内会
会報第 12 号

発行日
平成 19 年 10 月 20 日

発行責任者
広袴町内会
上杉孝三郎



納涼盆踊り大会を終えて

八

月一日、納涼盆踊り大会当日に必要な品物の買い出し、食料品の注文がほぼ整い、後は当日を待つばかりと思ったところへ、台風五号の接近が報じられました。



納涼盆踊り大会を主催する町内会長を始め、町内会役員の我々としては、大変に気をもんだところですが、幸いに台風は関東地方をそれて日本海に達し、北海道方向に抜けてい

きました。これもひとえに広袴町内会会員及び関係者各位の普段の行いが功を奏したものとほっと胸をなでおろしました。

以下すべての役員が改選となりました。そのような陣容の中での納涼盆踊り大会の実施と言う大役を仰せつかり、不安と困惑の日々が続きました。それぞれの日程に応じてその都度会議を開催して、その決定事項に基づき準備を進めてゆくのですが、事案によっては自分が直接判断してお願いすることも多々ありました。その都度積極的にご協力いただいた町内会会員の皆様に深く感謝致しております。



納涼盆踊り大会に関する始めての会合は六月十六日でした。それから約一ヶ月半の準備期間でしたが、あつと言う間の期間だったように思います。納涼盆踊り大会当日は、朝からよく晴れていました。午前中にテント張り、やぐらの花飾り等を用意して午後からはそれぞれの役割にしたがっての準備、出店等(焼き鳥の下焼きフランクフルトの下茹で等)の準備をすませ、納涼盆踊り大会開始の会長挨拶を待つばかりとなりました。

午後六時広袴町内会上杉孝三郎会長の開会挨拶により、平成十九年広袴町内会納涼盆踊り大会が開会されました。

午後六時〜同七時の間は子供会が主体となつての盆踊り、その後大人も参加しての文字どおりの盆踊り大会となりました。近隣町内会からの踊り子さんが色とりどりの浴衣に身をつつみ舞台上で、又、当町内会の踊り子さんも町内会会員の皆さんたちと共に太鼓に合せて楽しく踊っている様子を見て、思わず踊りに参加したいと、思ったのは私一人ではなかったのではないかと思われまます。踊りを楽しむ人、出店で購入した飲食物を楽しむ人、それぞれの家





族、友達と話し合っている人など、なかなかうちにも盛大に盆踊り大会が行われました。納涼盆踊り大会は、日本における庶民の楽しみであると同時に将来にわたって伝えて行くべきものであります。これ

から時代が移り変わってもいついまでも続けて行きたいと思っています。皆様方々の御協力、ご支援を賜りまして、事故なくお開きとなりました。最後に近隣の皆様にご迷惑をおかけしたことに對し、謝意を申し上げまして御礼のご挨拶にかえさせていただきます。

文化部長 本郷和朗



盆踊りに参加して思ったこと

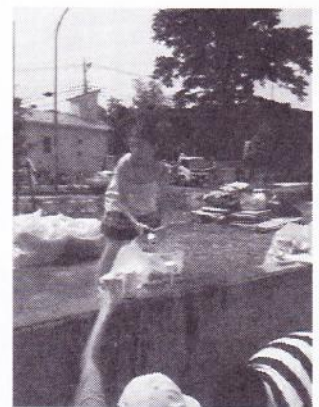
盆

踊りの翌日、家に遊びに来た二歳半になる孫娘は、「婆は、踊ってすごい。」と、

言っていると思われる言葉を発し、羨むような眼差しで私を見たと思ったのは、孫を持つ婆さんの独りよがりだろうか？ 私はそうは思わない。孫も娘夫婦に連れられて、一緒に踊り、手作りの舞台の上で踊る可愛い小学生の子供達の中に見様見真似で入っていったのだから。

子供は親の背中を見て育つというが、舞台上で踊る私を見て、孫が喜んでくれたのは、色々深い意味を宿しているような気がする。此処にいたるまでの、本郷文化部長を始めとした沢山の人の汗が、本当の意味での共同体世界を形作ってくれた訳だが、その汗の結晶を子供達に感じさせることの素晴らしさを私たち大人は大事にし、継承していかなければならないと思うのだ。

長い海外駐在生活から帰国して直ぐに、この鶴川に七年前に居を構えて以来、四季折々の土地の伝統と日本の文化を醸し出してくれるような場面に、私達夫婦は常に遭遇する事の至福を感じていた。特にお隣の地元ご出身の吉川御夫妻には、心地よく色々教えてもらった。そして奥様から、今年の盆踊りへの参加を促された時は、自分の子供時代にフラッシュバック出来るかも！という好奇心から、そのお誘いに心惹かれたのだ。とても楽しく踊ることが出



来たのだ。
盆踊りの歴史をネットで探索してみた。盆踊りの歴史は五百年と長い。今更、このページを借り

て盆踊りの歴史について蘊蓄を傾けても意味は無い。興味ある人が調べれば良いことだから。しかし、はつきり言えることは、私達の先祖が、文字に頼らず、目、耳、口、身振りなど「カラダ」で記憶し、伝えてきたのが盆踊りだという事だ。

「カラダ」で記憶し伝えてきた事実は重く、我々一人ひとりの身体の中に脈々として流れるDNAは、それを記憶しているはずなのだ。

その記憶を呼び起こし、昔に思いを馳せ、そして、縛られるという意味ではなく、共同体の素晴らしい部分を感じ、和を持つことの大切さを、未来を担う子供達に伝えて行きたいものだ。盆踊りの翌日、炎天下の中で、後片付けに参加した大人の中に交じって、可愛らしい小学生の女の子が一人、呑み捨てられたアルミ缶の仕分けと洗浄をしていた。「その姿は嬉しいものがあった。」と、夫が私に伝えてくれた。この文章を書きながら、その夫の言葉を思い出し、一人微笑んだ。

広報部 佐々木幸子

自主防災訓練実施

七

月二十九日 日曜日。お天気にも恵まれ、多数のご家族にご参加をいただき自主防災訓練が行われました。

消火活動、三角巾の使い方等、町田消防署、消防団の方々のご指導、ご協力のもと、取り組んでいただき、いざというときに役立てられる対処方法を習得していただけたのでは・・・。

また、ぐらり号、煙ハウスなどでは、実際に地震が起こった際の揺れなど身をもって体験することができたかと思われまます。

地震、火事は、私たちにとって身近な天災です。いつ来るかわからないものなので、日頃の訓練が大切です。ご近所などでも、顔を合わせた、ちょっとした時間などで避難場所の確認などしていただければ安心ですね。



消火器もここ数年、台所の隅に邪魔にならない程度においておけるものも出ています。そういったものも用意しておく心安いですね。また、火災報知器の設置も義務付けられるようになります。

地震。皆さんのご家庭では、防災グッズを用意していますか？「なんとかなるわ。」ではなく、用意しておくに越したことはありません。(ペットを飼っていらっしゃる方は、ペットの防災グッズもお忘れなく！いざというときに三日分は必要といわれています。)家を離れる時にすぐに持ち出せるところに、ご用意を。

毎年、暑い時期に行われる自主防災訓練ですが、



・朝早くから準備にたずさわって疲れた係の人も多かっただろう。
他地区の盆踊りも、終了は九時が多いと聞いている全体として、お天気にも恵まれ、大盛況だった今年の盆踊りを評価しながら、以上のような反省点も聞かれた。



火事。最近、ニュースでアロマオイルを拭き取ったタオルが乾燥機で燃えた、食用油を古着などに含ませ放置しておいて火が出た、など、考えもしないような事で火事が起こりうることもあります。

消防署、消防団の方々のご協力もあり(ありがたいと
ございました)、沢山のことを知り得るチャンスで
もあります。地域の協力の場でもありますので、来
年も暑さ対策を万全にして、皆様ご参加くださいま
すようお願いいたします。

防災・防犯・交通部 四組 渡辺



クリーンアップデー

七月十五日、平成十九年度第一回「クリー
ンアップデー」を予定しておりましたが、
ご存知のとおり、台風の影響による雨のため、前例
にしたがいまして中止となりました。

環境・衛生部としまして準備を進めておりまし
たが、広袴町内会の皆様におかれましては、個々に
準備をされていたかと存じます。

午後になり雨も弱まったため、清掃をされた方も
いたかと思いますが、ご苦勞さまでした。

クリーンアップデーとしての全体活動は中止と
なり、第二回目は十一月下旬を予定しておりますが、

間隔が開いてしまうことでもありますので、部会で検
討した結果、十一月下旬までに第一回目のクリーン
アップデーを再度、実施することになりました。
また、クリーンアップデーとは別に、参加できる
方を集い、場所を特定して地道な清掃活動を実施し
ていきたいと考えております。

皆様におかれましては日々、近隣の清掃活動をさ
れているかと存じますが、きれいな町づくりを進め
るうえで、また広袴町内会としての親睦も兼ねまし
て、今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたし
ます。

今後の活動につきましては、回覧によりアナウン
スさせていただきますが、要望等がございましたら、
部会で検討してまいります。

最後に、公共の場である広袴中央のバス停付近を、
日々清掃されている方がいらつしやるとお聞きし
ました。通勤・通学で利用されている方も多いので
はないかと思えます。この場をお借りしてご紹介さ
せていただくとともに、感謝したいと思います。

【環境・衛生部より】



広袴公園、せせらぎ緑道を守る会

「広袴公園、せせらぎ緑道を守る会」参加の
お願い。

広袴公園と鶴川台せせらぎ緑道は、二〇〇二年
十一月に当時の住宅都市整備公団から町田市公園
緑地課へ移管されると同時にオープンされました。
私共「広袴公園と鶴川台せせらぎ緑道を守る会」
は、この時から、月一回の清掃作業を行って、五年
近くになります。

いつも皆様方にはご協力いただき御礼申し上げ
ます。

せせらぎ緑道は広袴だけではなく、真光寺町内会
や真光寺三丁目町内会の地域もあります。両町内会
にも働きかけ参加して頂いています。鶴川六丁目の
方もいつも調整池のゴミを上げてくださっていま
す。

町田市の公園除草は、毎年六月、十月の年二回で
す。どうしても私共がこまめに清掃する必要がある
のです。

残念ながら、弁当の空、ビニール袋、空き缶、犬
の糞、吸殻、鉛の紙等々いろんなゴミがあります。
また、池の中にテレビや自転車捨てられたり、大
雨で車のタイヤが流れてきたり、池のあふれた後の
土砂や流木、落ち葉等、清掃することが沢山です。



毎月第一土曜日午前八時三十分に広袴公園に集まり、一時間程度、広袴公園、鶴川台せせらぎ緑道のゴミ拾い等清掃及び雑草取りをします。

小雨決行と

し、当日が雨天、荒天の時は翌日の日曜日に行っています。軍手、ゴミつかみ、鎌などの用具をお持ちください。ゴミ袋は町田市からの支給品があります。竹箒、熊手などは、会で用意しています。ゴミの回収は町田市にお願いしています。

「キレイにしておけば、汚されない」を信念に、長く続けていきたいものです。

次世代を担うお子様から高齢者まで、どなたも大歓迎です。是非ご参加ください。

五年の月日が経ち、桜、センダン等色々な樹木が美しい花を咲かすようになりました。

シンボルツリーのクスノキ(町田駅近くの東急ジョルナの脇にあったものです)も元気に葉を茂らせています。

カワセミを始め多様な野鳥も観察できます。

カルガモ、バン、カイツブリは毎年調整池で繁殖、子育てをしています。美しく楽しい広袴公園、鶴川台せせらぎ緑道を守つていきましょう。

会長 山本隆治 町田市広袴 3-24-11

TEL&FAX042-736-0214

Eメール ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp



民生委員の活動ご紹介

初めに、去る四月一九日の火災で亡くなられた四名の方のご冥福をお祈りしたいと思

います。

梅雨空が続いておりますが、町田市の民生委員は毎年この時期、福祉の手引きを配布しています。七十歳以上の方の居られる世帯を対象とするもので

すが、担当区域の内にはあまり行ったことのない場所もあり、地域を知る上ではいい勉強になっています。

私がこの手引きを配布するのは今年で三回目になります。広袴中央を通る都道一三九号線から南の広袴一丁目、二丁目と広袴町に当たる区域を担当しています。

その都道から北の三丁目、四丁目と広袴町の区域は富田和子さんが担当されています。富田さんが手引きを配るのは、今年が初めてなのですが、六月の半ばには配り終えられたと聞いています。去年は、その新しいお家の多い地区を、悠々園の陶山慎治さんと分担して配布しました。この辺りが造成中の山だった頃はよく犬を連れて歩きましたが、その変貌ぶりには目を見張るものがあります。

広袴の民生委員は、代を遡ると、桐生イマさん、吉川義一さん(故人)、宮前宏さん、名取潔さん(一昨年、任期途中で亡くなられました。)までは一人だったのですが、開発による世帯数の増加のため私の中から一名増員されました。また、臨時に、真光寺の中村礼子さんが広袴を担当されたり、吉川忠作さんが、鶴川五丁目を担当されたこともあったよう

です。民生児童委員としての活動は、月に一度開催される鶴川第二地区の民生児童委員協議会の定例会に出席することを中心として、研修会への参加、乳幼児検診の未受診家庭を訪問する事など、実に様々なものがあります。民生委員一人で解決できることは

あまりなく、関係機関に連絡を取ることが任務の中心と考えています。災害時の援護者名簿を作成して一人暮らしの要援護者を把握しようという試みも今年からされています。

災害といえ、新潟でまた、大きな地震があったばかりですが、一九二三年の関東大震災では、広袴不動尊のお堂が壊れたと吉川照正さん(故人)が書き残されており、人口の少なかつた当時と現在の状況を比較するのは難しいのかも知れませんが、地震に対して油断はできないと思います。

私の母は現在、八十八歳ですが、十四年前に心筋梗塞で生死の境をさまい、病院通いが続いておりました。今は体調の悪さを訴えつつも、広楽会に出席したり、妙全院で石田玉恵さんに御詠歌を習ったりしています。地域の方々のお陰で今まで生きてこられた面が多々あります。ほんとうにありがとうございます。

この三年間、介護保険が改正されたりして高齢者を取り巻く法制度を含めた環境はドンドン変わっております。頭が悪くて至らぬことの多い私ですが、勉強も怠らぬようにしていきたいと考えております。

三組 B 西村正嗣

柳田国男の見た「広袴」

平

成十七年九月、広袴会館落成式で、寺田市長は、柳田国男先生が広袴に來た話を披露した。

柳田先生は、「遠野物語」などで知られる著名な民俗学者だ。

そこで、八組の金子先生に、「柳田国男が広袴に來た記録がありますか」と尋ねたところ、数日後資料のコピーを頂いた。「柳田国男全集第3巻水曜手帳」広袴の項である。それによれば、昭和十八年十一月二十日、都筑郡の方から(都筑郡片平か?)山を越えて能ヶ谷に來た。その打越という小字の農



不動堂
(左下隅に柳田先生の記述に出てくる「奉献、明治十五年壬午」と彫った石の手水鉢と石地蔵は今も不動堂境内にある。)

家で当主からいろいろ話を聞いている。(私が能ヶ谷辺りの農家に聞いたところでは、この打越は字名ではなく、住吉谷戸と呼ばれた辺りの通称のようである。打越は、「おつこし」とも呼ばれるところもあり、山越えの意)

それから広袴に入り地形などを観察した。もともと広袴という地名に、何か古いものが探し出せそうだとやって來たわけだが、地形を観察し、「丘を取巻いた湿地帯か、又は畑作に適した段丘の上か、どちらかをこの辺ではハカマと謂って居たらしいので、自分だけは多分前の方だろうと想像する」と考察している。

それから畑の真中を貫く道を西へ行くと曹洞宗、不動山妙全院という寺に出た。さらに登っていくと奥の院のような不動堂を見つけ境内を見て回った。私の想像では、柳田先生は広袴という地名もさることながら、打越の農家で聞いた不動堂と村人との関わり合いに興味をもったようである。不動堂について次のように記している。

「大正十二年の震災に、この不動堂は倒壊した。その跡へ村の総力を以て、新たに建てたのが今の御堂だが、是は仏閣らしい部分が甚だ少なく、よほど此地方の神社の拝殿と似て居る。・中略・毎月八の日のご縁日には、寺僧が登ってきて勤行する外に、村には念仏講といふ女人の団体もあって、是も此堂に信心の集まりをするのだが、なほ其以外に村の神明社の例祭といふものを、神職を講じて執り行ふといふのが変わって居る。」



広袴周辺の航空写真（昭和23年）

以後長くなるので、概略を述べると。

「この村には 以前上の区に四つ、下の区に二つ、合わせて六つの小社があつて、その中の神明社が、広袴の産土神になっていたところ、明治末年の神社合祀によって広袴神明社に合併されてしまった。そこで村人は不動堂の境内に石の祠を建て、それを神明社として祭りなどをしてきた。ところが段々と面白くないことが続いたので、『これは神明さまが不動山にいることを、御好みなされぬ為だ』と、祠を元の社地へ引移して建てた。しかし祭典だけは不動堂で営んでいるのである。

このことから、柳田先生は不動堂が建てられる以前から、この地点が両部修験の神仏混淆の長い歴史があるのだらうと推察している。

現在の神明社が建てられた経緯は、会報3号「神明社 広袴の氏神様」に詳しい。また村に散在していた小祠の名前など、会報7号に、金子先生の書かれた「江戸時代の広袴」の中に詳しい。小祠群は現在、神明社境内に合祀されている。

上の写真は、市の市政情報課に保管されている昭和二十三年米軍が撮影した空中写真である。

コピーを繰り返しているのも傷も多い。私は詳しいことは分からないが、写真のAは真光寺川、Bは神明橋、Cの辺りが現在の広袴中央交差点付近、Dの辺りを北西に伸びる線が鶴川街道と思われる。右下から左上へ真光寺川に沿った水田地帯がよくわかる。柳田先生が広袴を訪れたのは、昭和十八年だが、その時の風景はこの写真とそれほど変わらないと思われる。

さて、あなたはこの写真のどの辺りに住んでおられでしょうか？

七組 広瀬俊雄

ヒロハカマ — 地名の由来

地

名の由来を調べたり、考えたりすることはとても面白い。お隣の「能ヶ谷」は中世までは「直ヶ谷」と表記されていたことが、資料によってわかる。直ヶ谷⇨ナオガヤはその地形からくるもので、鶴見川が金井・大蔵方面から東流してきて、ここで三輪へ入る処でまた曲流して東へ向かう。つ

まり此処の地域においては鶴見川の谷戸は真直ぐなのである。そこで「直ヶ谷」⇨ナオガヤと呼ばれ、それが次第につまって「ノウガヤ」となり、その音に合わせて漢字表記も「能ヶ谷」と変えられたものと思われる。上集落と下集落の間に入る真光寺川の谷戸は「裏谷戸」と呼ばれた一つの集落を構成した。

ここでわかることは、地名の漢字表記は、後世に「宛て字」されることが多く、あまりその文字にとられてはいけないということ、地名は「音」（オン）に戻して検討する事が大事だということである。それではヒロハカマの地名由来はどうであろうか、「広袴」という文字から類推して、村の形が「広い袴の形」をしていることから、と昔から言われてきた。漢字にとらわれてしまったのである。古い村絵図や古い写真を見ても、村は袴の形などではない。これは何か別の由来がある筈だと、異なった視点からの考察が必要となる。

地名の方では、台地や丘陵の急な斜面（崖）をハケと呼ぶ。武蔵野の野川のハケは有名だが、この多摩丘陵の中にもハケは無数にあり、ハケのついた地名も沢山ある。

さてこの広袴の地形をみると、真光寺川の谷戸の両側が崖になっている。この崖がハケである。ただし現在は南側のハケは崩されて住宅地・鶴川団地が造成されてはつきりなくなっている。しかし北側は現在もハケの形を残して斜面は雑木林になっている。

両側がハケでその間に真光寺川が流れ、その沿岸に田圃が広がっている。つまり「ヒロハケマ」が元の呼び名であったのではなからうか。時の流れの中で、ヒロハケマは音韻が変化してヒロハカマと呼ばれるようになる。するとその音にあわせて漢字表記も「広袴」とされるようになったのではないか——というのが私の考えである。いかがなものであろうか。

広報部 金子欣三

編集後記

・隣はなにをする人ぞ？ 近隣の崩壊が言われて久しい。近隣への思いやりがお互いに薄くなってきたのは悲しい。広袴住民の身近な問題を、広報活動を通してタイミングよく知らせることができれば、嬉しい。(佐々木)

・今回町内会の班長、そして広報の活動を通じ、身近な方との出会い、そして広袴という町にすごく近づけたと思います。縁あってこの広袴に越してきたので、これからも町の人との出会いを大切にしていきたいと思えます。そして皆が知り合い、皆で守っていき、住みやすく、明るい町になってもらえたらなあ〜と思います

ます。(安蔵)

・今回初めて「広袴便り」の制作に参加させていただきました。まだ不慣れな点もありますが、周りの皆様と協力して頑張っていたいと思っております。(今井)

・何もかも初めてづくしの広報作りですが、みなさんに「おもしろい！」と思ってもらえるような広袴便りを今後で作っていききたいと思えます。(長谷)

・我が家はせせらぎ遊歩道のそばにあります。朝夕は散歩の人たちがひきも切らずです。又ここは大銀座でもあります。早朝から夕暮、薄暮迄、主と一緒にいそいそとです。明るい内は皆さん始末もきちんとささいですが、暗くなつてからの方達の中には時々そのままの方もいらつしやる様です。まあ糞の量をみれば犬の大きさも、だいたいわかります。推測しますと中型犬以上ですね。大型犬になりますと人間の赤ちゃんぐらいの量ですからね。愛犬家の皆さん、始末はきちんとしましょう。(松川)

・何と言つても今回このような仕事は生まれて以来初飯おかわり
三丁目啄木(谷口)

めてなもので、何もわからずただいるだけでした。次回は何かお役に立てればよいと思えます。(佐藤)

・今年の夏は暑くて短い夏でした。地球温暖化の進行を少しでも遅らせる為に今できる事を実行していきたいです。(土屋)

・初めての事ばかりで戸惑う事が多いのですが、よりよい広報作りに参加したいと思えます。(大矢)

・広報の活動を通じて、この地に縁あって住まう皆様の「縁結び」ができれば幸いです。(吉川)

・部員諸氏の積極的な取り組みにより、私どもとして第一回目の発行に漕ぎつけることができました。今後とも、一致協力して、町内の皆様に親しんで戴けるような紙面を目指したいと思えます。(井上)

・この「広袴便り」を、単に町会の行事報告だけに終わらせたくないと思っております。広袴という「地域」をより良く知るための記事も載せて行きたい、地域にどんな人が住み、またどんなことをやっている人がいるかなど、地域というものを広く知るよすがとして行きたいということです。(金子)

ちやん 谷間がっあき



広報部長	金子欣三	安蔵由希代
副部長	井上好信	長谷美紀
編集人	佐々木幸子	谷口 正
	今井昭哉	土屋知子
	松川泰重	吉川和秀
	佐藤裕幸	
	大矢喜昭	